

これまでのグランドデザイン

《1982》 「大阪 21 世紀計画」 グランドデザインの基軸（第 1 次） 大阪 21 世紀計画宣言

東西に延びる列島の中心近く、豊かな大河が穏やかな海に注ぐ沃野に、日本が世界に向けて開く窓となる都がある。

難波。

それは、神話の時代に生まれてつねに新しく、巨大な城を擁して、その主よりそれを養った住民たちが偉大だった都である。

「天下の台所」を営んで国を富ませ、海と陸の道を結んで人びとを出会わせ、耳ざとく国の内外の知恵を集めたのは、

商いに励み、腕に誇りを持つその住民たちであった。

大阪。

かつて巷の賑わいの中から近松や西鶴を生み、懐徳堂、適塾の精神から近代化の道を見出したこの都は、

いま、21 世紀をまごかにして、新しい任務を担っている。

21 世紀こそ、日本にとって活力ある都市の時代であり、ゆとりと冒険心をあわせ持つ都市民の時代だからである。

限られた資源を活かし、知識と情操から限りない富を生み、世界のために新しいライフスタイルを実験することが、

明日の日本の課題である。

この課題に勇敢に迫り、みずから豊かで誇りある生活の場所を作ることが、今日の都市の責任である。

かねて住民が主人であった大阪は、まさにそれに適わしい気風を持ち、人材と経験の蓄積に恵まれて、この責任に応えうるであろう。

きょう、大阪は、

ここに公共と民間の熱意を結集し、この街の経済、政治、文化創造の力量を飛躍的に高め、

ひとつの美しく品格ある人間の住みかを作って、歴史への贈り物にしようと決意した。

(1983 年 10 月 8 日)

《1992》 「大阪 21 世紀計画 新グランドデザイン」(第 2 次)

文化立都宣言

美しく品格ある人間の住みかを作ろうという

大阪の決意は

このまちをこよなく愛する人びとの

熱意と英知をひとつに集め

今まさに実を結ぼうとしている。

活力溢れるこのまちが

感動とやすらぎを分かち合う舞台となり

世界中の人びとを魅了してやまぬ都であり続けるために

文化に未来を託したい

文化の躍動と静謐、その煌きと潤いが

まちを磨きあげるのだ

来るべき 21 世紀に向けて

文化で都を立てよう

このまちが遥か未来にまで輝き続けることを心から願い

ここに大阪は

文化立都を宣言する

(1992 年 5 月 18 日)

文化とは

「文化立都・大阪」でいうところの文化とは何か。
それは、楽しみ、憩い、ゆとり、やすらぎなど、こころを快適にするものであり、同時に知的欲求や好奇心を刺激するものである。

具体的には、今日の文化の根幹を成すものは、「学術・技術」、「芸術」、「スポーツ」である。それは人間の頭脳と心と肉体に照応している。

また、人間の遊びを論じたロジェ・カイヨワのいう模倣（マネ）、眩暈（メマイ）、競争（ゲーム）にも対応するものであり、くわえて、日本人が古来から徳目とした知・情・意、すなわち「知ること・感じること・考えること」にも通じるのである。

新グランドデザイン（第2次） 「解説編」 2. 文化立都 から

《2003》 「大阪 21 世紀計画 グランドデザイン（第3次）」 — O S A K A V I S I O N 3つの指針と8つの都市像 —

・三つの指針

- ①美しい都市・大阪の実現を図る
- ②水の都・大阪を創生する
- ③祝祭都市・大阪を目指す

・八つの都市像

- | | |
|---------------|------------------|
| ①文化のハイブリッド都市 | ②未来の伝統都市 |
| ③エコロジカルな環境都市 | ④人が主役の都市 |
| ⑤文化のプロデューサー都市 | ⑥文化・産業プラットフォーム都市 |
| ⑦イメージ発信都市 | ⑧文化のムーブメント都市 |